

第1学年 国語科学習指導案

児童 男1名 女2名 計3名
指導者 黒澤 仁 恵

1 単元名
よくきいて、あてよう (パターンC - 1)

2 教材名
「わたしは、なんでしょう」

3 教材について

(1) 教材観

本教材は、公的な場で話したり、聞いたり、応答したりすることの学習を行う教材である。日頃、友だちとの会話などを通じて自然に身に付いている常体の文体から敬体「です・ます」で話す活動へとやや形式の整った(フォーマルな)言葉遣いでやりとりをすることをねらう。

クイズは、どの子も大好きである。参加する者どうしが、聞き手と話し手との立場に交互に立ちながら、正答しようという必要感をもち、目的と相手に応じて「尋ねたり応答したりすること」を行う経験を一人ひとりができる。現段階では、話し合いというよりは一問一答での受け答えが多いが、クイズは楽しみながら伝え合う力を育てるために題材として有効であると考えた。

これらの活動を通して、1年生の「話すこと・聞くこと」に関する指導目標である「相手に応じて、経験した事などについて、事柄の順序を考えながら話すことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度を育てる。」ことを目指し、内容「ア 知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと」に重点を置き、指導する。

【5つの言語意識について】

相手意識・・・クイズに参加している友だちに

目的意識・・・クイズを聞いてもらうために

場面・状況意識・・・クイズ大会で

方法意識・・・クイズを出題したり、質問に答えたりすることで

評価意識・・・答えが分かった観点を聞いて

(2) 児童観

児童は、本校が少人数学校であるため1学期から児童総会や全校総会(全校児童による月の生活目標についての話し合い活動)集会活動、子ども会の話し合いなどに参加し、全校での話し合いを体験してきた。また学級では、教師が中心となって、自分の思いをみんなの前で話すことを意識的に設け、話すこと・聞くことへの慣れと基本的なルールを習慣づけるよう指導してきた。例えば、朝の会で昨日の出来事を話し、友だちの発表でわからないことを尋ねたり感想を述べたりをしてきた。

その結果、話を聞く態度や話したいことを相手に伝えるための話し方を上学年の真似をして行おうとするようになってきている。加えて、自分の考えを簡単でも話そうという意欲がでてきている。

しかし、少人数の学級ではある程度の思いを話せることができても、全校の前での発表などは緊張してしまい、話し始めに時間がかかることが多い。児童本人もどのように相手に伝えたらよいか悩む様子が見られる。また、自分の思いばかり話そうとして相手の考えを聞くことができないことや相手に伝えようとしてもうまく言葉にできず指示語だけで話して終わることもある。

2学期から転入生1人を加えて学習活動に広がりが見られるようになった。2人だけのときよりさらに互いの考えや思いを交流しあえるよい点を見られる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、クイズが楽しく展開されるために、児童本人が出題したいものを自分で見つけ、実物を見ながら問題を作らせるようにし、積極的に自信を持って出題できるようにしたい。また、聞く側に自分の考えた問題が伝わるためには、分かりやすくはっきりとした発音で発表することの大切さも指導したい。

クイズ大会の指導については、聞く側が出題者のどのようなヒントで答えがわかったかを話すことで、出題者の思いが伝わったかどうかを知らせ、出題者のさらなる意欲へつなげていきたい。そして、聞く側にも出題者の思いを聞き取ってあげようという思いが芽生えることで、聞き手が話し手を思いやり、話し手が聞き手を配慮してともに協力しあって通じ合いを成立させるといふ、話し合いの基本ともいふべき態度を養うことを目指したい。

(4) 仮説との関わり

・教材の工夫について

教科書教材ではあるが、クイズを何度も出し合うことによって伝え合う力をつけていけると思われる。そのために指導過程を工夫し、反復練習を行うことによって言語活動能力をのばせると考える。

・支援表の活用について

体験活動の多少などによる能力差があるため、話す内容の程度によって児童一人ひとりについての支援が必要不可欠である。そのため、日常生活を含めて学習状況を記録に残し、指導の手立てを講じる目安とすることによって一人ひとりの学習効果が高められると考える。

特別支援児童が在籍していることより、スクールヘルパーと協力して児童を多角的に見ることができ、それを支援表に反映させることでより活用を図れると考える。

(5) 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・「わたしは、なんでしょう」クイズに関心を持ち、進んで出題したい物を探したり友だちに自分の問題を出題しようとしていたりしている。

【話すこと・聞くこと】

- ・クイズに出題したいものから特徴を見つけて、聞き手に分かってもらえるように話している。(ア)
- ・友だちの問題から答えが分かることを聞き落とさないように興味を持って聞こうとしている。(イ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・出題するときに、みんなに聞こえるようにはっきりと話したり、質問に答えたりしている。
〔ア(ア)〕

(6) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	・「わたしはなんでしょう」のクイズに興味を持って楽しく話そうとしている。
話すこと・聞くこと	・当ててほしい物を選び、その特徴(形や色、働き、役目など)を聞き手に分かってもらうように話している。 ・大事なことを聞き落とさないように聞こうとしている。 ・クイズに対してもっと知りたいことを質問している。
言語についての知識・理解・技能	・丁寧な言葉を使ってはっきりした発音で話したり、質問したりしている。

(7) 指導と評価の計画（4時間）

時	学習内容と 主な活動	学習活動における具体の評価規準		
		関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての 知識・理解・技能
1	・「わたしは、なん でしょうクイズ大 会」のやり方を理 解し、計画を立て る。	・「わたしは、なん でしょうクイズ」に興味を持ち、 すすんで活動に取り組み ようとしている。	・「わたしは、なん でしょう」のクイズに答えなが らやり方を理解してい る。	・読み替え漢字や語句につ いて理解している。
2	・「わたしは、なん でしょうクイズ大 会」の問題を考え、 準備や練習をす る。	・進んで出題したい物を見 つけ、その特徴を自分な りの言葉で問題を考えよ うとしている。	・出題したい物の特徴を自 分の言葉で友だちに分か ってもらえるように工夫 して話している。	・みんなによく聞こえるよ うな発音や声の出し方で 練習している。
3	・「わたしは、なん でしょうクイズ大 会」をする。 (本時)	・出題したい物の特徴を自 分なりの言葉で友だちに 伝えようとしている。	・出題したい物の特徴を友 だちに分かってもらえ るように話している。	・姿勢良く立ち、みんなに よく聞こえるような声の 大きさではっきりと話し ている。
4	・「わたしは、なん でしょうクイズ大 会」part 2をする。	・友だちの問題を正しく聞 き取り、もっと知りたい ことを質問しようとして いる。	・友だちの問題を正しく聞 き取ったり、もっと知り たいことを積極的に質問 している。	

4 本時の指導

(1) 目標

クイズの問題を自分の思いが伝わるように話すことができる。

(2) 本時の展開

段階	学 習 活 動	支 援 (*) 具体的評価規準 (A ・ B)
導 入 5 分	1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> こたえをあててもらえる ようにもんだいをだそう </div>	* 一人ひとりが当ててほしい物の問題を考えたことを確認し、クイズの意欲付けをする。 * 「わたしは、なんでしょうクイズ大会」をすることを知らせ、本時の見通しを持たせる。
展 開 35 分	3 「わたしは、なんでしょうクイズ大会」をする。 クイズ大会の約束を確認する。 クイズ大会をする。	* みんなに聞こえるように話すための約束を確認する。 * 順番に問題を出し、みんなが質問しても答えが分からないときは、正解を言うなどの約束も確認する。 * はじめの出題を担当が行い、ルールに沿ってやってみる。その際、スクールヘルパーの協力を得て、質問の出し方の例を示すようにする。 A クイズの問題を相手に分かるように自分の言葉で話している。 B クイズの問題を自分なりの言葉で、相手に分かってもらえるように話している。 * 出題者が質問にうまく答えられなかった場合は、出題用紙を見させたり伝わりきれない言葉を補足したりするようにする。 * 出題者のどんなヒントで答えが分かったかを話してもらうことを意欲付け、集中して聞くことができるようにする。 * 一人ずつ交代で何度でもクイズを出せることで、話すことに自信が持てるようにする。 * 出題者が楽しく問題を出せるように担任やスクールヘルパーが相づちを打つようにする。 * クイズの出し方で上手だったところや頑張ってたところを発表し合い、友だちの良いところを誉め合うようにする。
	4 クイズの様子を話し合う。	

		* 自分が感じたことや困ったことを発表しあい、次のゲームに活かせるようにする。
終 結 5 分	5 がんばったことなどの振り返りを書く。 6 次時の学習を確認する。	* 先にみんなで話し合ったことをもとに自分の言葉で書けるようにする。 (ワークシート)

* 板書計画

わたしは、なんでしよう
クイズ大かいをしよう

めあて
こたえをあててもらえるように
もんだいををだそう

はなすときのやくそく
・・・

クイズをだすじゅんばん
1 2 3 4 5

ともだちのがんばったところ

じぶんのがんばったところ

* 座席表

教卓

A女

H男

M女

スクールヘルパー

「話すこと・聞くこと」支援表

第1学年 2学期

よくきいて、あてよう

「わたしは、だれでしょう」(4時間)

到達目標	・クイズに出題したいものから特徴を見つけて、聞き手に分かってもらえるように話している。	・友だちの問題から答えが分かるところを聞き落とさないように興味を持って聞こうとしている。			
評価規準	・当ててほしいものを選び、その特徴(形や色、働き、役目など)を聞き手に分かってもらうように話している。 A クイズの問題を相手に分かるように自分の言葉で話している。 B クイズの問題を自分なりの言葉で、相手に分かってもらえるように話している。	・大事なことを聞き落とさないように聞こうとしている。 A 問題をしっかりと聞き取り、ヒントとなる質問をしようとしている。 B 答えのヒントとなる言葉を聞き取り、答えを出そうとしている。			
項目	特記事項(学習の様子と課題 指導の手だて)				
氏名	指導以前の様子	第1時	第2時	第3時	第4時
	出来事を詳しく話すことができる。話をよく聞きよく考えて発表できる。反応がはやい。しかし、相手意識が弱く、独り言のように話すことがある。また、友だちの言いたいことまで先回りして言うことが多い。	<p>評価</p> <p>クイズをするということでもとてはりきっていた。模範CDの問題にも質問をしたり答えようとしたりしていた。クイズのやり方は、分かったようだ。</p> <p>答えようとするあまり、友だちの質問や発表を聞かずにどんどん話し始めるため、順番に話すことを繰り返し指導した。</p> <p>次時は、出題したいものをどのように伝えればよいか考えさせ、なるべく自分の言葉で作らせた。</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>

	<p>話し始めに時間がかかる。体験したこととそのときの気持ちの2文で話すことができる。友だちの発表をまねて話すことができる。気分が乗ってくるととてもよく話す。</p>	<p>評価</p> <p>担任が出したクイズの問題をよく聞き、答えようとしていた。問題の出し方をワークシートに沿って考えることができる。</p> <p>友だちの問題</p> <p>次時は、</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>
	<p>話の聞き方や姿勢が良く、周りの子に話し方や聞き方を注意することがある。自分の思いや考えをすぐには発表せず、友だちの発表を聞いてまとめてから話すことができる。冷静に判断し話すことが多い。</p>	<p>評価</p> <p>模範CDの問題や担任が出す問題にもまだどう答えたらよいのか分からず、友だちの話しを聞いていることが多かった。担任の出す問題に答えようとしていた。</p> <p>質問の仕方をスクールヘルパーや友だちの真似をして言うように声をかけた。</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>	<p>評価</p>